

稔知するに、賢王の動止は多福にして喜慰の至りなり。貴国と敵邦と相い去ること遐邇なりと云うと雖も、而も交好の情愔々堅し。既に厚恵を蒙り、当に少謝の誠を申ぶべし。茲に正使亞斯美等を遣わし、礼物を齎し詣前して酬献せしめ、少しく情悰を布ぶ。笑留すれば万幸なり。船内に亦た微貨有り。乞う、属に令行して早やかに買売を与し、風時に赶趁して回還せしむれば利便ならん。須らく咨に至るべき者なり。

今礼物を開す

緑雲段一匹 白雲段一匹

藍雲段一匹 桃紅雲段一匹

木紅雲段一匹 素青段二十四

腰刀五把 扇三十把

大青盤二十個 小青盤四百個

青碗二千個 硫黄二千五百斤

右、暹羅国に咨す

天順八年（一四六四）八月初九日

礼儀の事

通事王元・鄭彬を差わす

亜哇郡尼に在りて船を打破し

て俱に亡す

注\*天順八年（一四六四）の暹羅への二隻の遣船（本文書及び〔四一

一〇四〕は、〔四一〇六〕及び本文書の添え書きによれば、遭難

して戻らなかつた。〔四一一五〕によれば暹羅での滞留が長かつたため季節風の期に遅れ、帰途に水没したのらしい。本文書および次の〔四一〇四〕にあらわれる乗組員のうち、通事の紅英のみはその後〔四一一〇〕〔四一一三〕に見られるが、その他の人員の名はその後の文書にない。

〔一〕亜哇郡尼 栗国島か。

1-41-04

琉球国王より暹羅国あて、達古是等を遣わして速やかな交易を請う咨（一四六四、八、九）

琉球国王、礼儀の事の為にす。

謹んで暹羅国王殿下に咨す。蓋し聞くに交隣は道を以てし、享物は儀を以てす。近ごろ知るに賢王、徳もて履い万福にして以て欣び慰むるを助く。敵邦と貴国と各々一方に君たりと云うと雖も、而も民の生養の理は則ち一なり。今、正使達古是等を遣わし、薄物を馳献して致聘せしむるの外、相い与に殊方の土産を貿易す。乞う、属に令行して聴従せしめ、早やかに回帰を与さば便益ならん。須らく咨に至るべき者なり。

今礼物を開す

緑玄段一匹

緑素段一匹

白雲段一匹 木紅段一匹

藍段一匹 青段二十四

腰刀五把 扇三十把

大青盤二十個 小青盤四百個

硫黄二千五百斤

右、暹羅国に咨す

天順八年（一四六四）八月初九日

礼儀の事

通事紅英を差わす

注\*〔四一〇三〕総注を参照。

（1）達古是 〔四一〇六〕によれば達固是。

（2）緑玄段 あるいは緑雲段の誤りか。

1-41-05

琉球国王より満刺加国あて、読詩等を遣わして速やかな交易を請う咨（一四六四、八、九）

琉球国王、礼儀の事の為にす。

謹んで満刺加国王殿下に咨す。窃かに謂うに、信を結び盟を修むるは乃ち交隣の大典にして、有を以て無に易うるは誠に相生の要道なり。恭しく惟うに、賢王、踐祚するや寛仁大度にして、沢

は群生を被い、名は列辟に揚ぐ。嚮者使を遣わし彼に適き殊方の土宜を貿易せしむ。荷くも衆をして協成し且つ侵漁して自ら利せず、宅心は公恕にして交隣輯和せしむるを蒙り、仍お饋恵を承く。何ぞ忘る可けんや。茲に于て復た正使読詩・通事蔡回保を遣わし、咨文及び回奉の礼物を齎し、庸て区区たる芹忱を表し、実に少しく万一に酬いん。亦た微貨有りて前來す。尚お望むらくは、遠人を寛洪し買売し早やかに回帰するを与さば利便ならん。永く惟い遐かに慕う。所有の徑咨は鑑納するを幸惟う。無文を異しむ勿れ。須らく咨に至るべき者なり。

今礼物を開す

各色段五匹 青段二十四

腰刀五把 扇三十把

大青盤二十個 小青盤四百個

青碗二千個

右、満刺加国に咨す

天順八年（一四六四）八月初九日

一、差わす勝号船 杜固麻沙里 正使読詩 通事蔡回保

注（1）賢王、踐祚 マラッカ国王マンスールIIシャーの登位をさす。

『明実録』によれば、前国王（ムザファールIIシャー）の明朝に対する朝貢は景泰六年（一四五五）七月で終り、その後、天順三年（一四五九）に蘇丹芒速沙（スルタン・マンスール・